

平成29年7月21日（金）
平成29年度 第一学期終業式あいさつ

秋田県立本荘高等学校長 今井 智幸

様々な体験を学びに、未来をたくましく拓け

様々な人々への感謝と大会への決意を述べた主将 渡辺晃介君 の選手宣誓で幕を開けた全国高校野球秋田大会で、硬式野球部は6年ぶりにベスト8を果たし、全校応援の機会を与えてくれました。夏の暑さの中、応援団、吹奏楽部をはじめ、全校生徒の声は選手一人ひとりを勇気づける心のこもった声援でした。昨日の準々決勝では、残念ながら強豪大曲工業高校に勝利することはできませんでしたが、誰もが改めて様々なことを考えさせられ、気づかせられた試合・大会であったと思います。

甲子園出場を目指し、これまで真剣な努力や様々な工夫を積んできたこと、大会や練習を通じチームワークや友情を培ってきたこと、実は準決勝進出のために戦略と準備を練って戦いに挑んでいたこと、そして真剣勝負に必要な真の力とは何かということ……。

「本当の強さとは、敗北から学ぶもの」、今日のある全国紙に載っていた言葉です。「負けてもいいんだ」という見出しで、棋士藤井聡太四段の連勝記録に寄せた記事です。負けたくていい、どんどん学んで、どんどん強くなればよいという趣旨の内容です。

負けや失敗という経験は、日常性の中で人を立ち止まらせ、思慮深くする側面があります。そして、負けや失敗は、単に過去の思い出として仕舞い込んでしまうことなく、未来に生かす力や勇気にすることができるということです。

硬式野球部の1、2年生の皆さんは、来年度今頃の一層の活躍を心に期していることだと思います。3年生の思いを糧に、「心技体知」の総合力の一層の充実を目指して、取り組んで欲しいと思います。これは、「右文尚武」を校標とする本校のどの部活動にも言えることです。

一学期始業式で、「未来へのまなざしが、今を輝かせる」というお話をしました。未来へのまなざしによって続ける努力は、楽しいことばかりではありませんが、実はとても生徒の皆さんを輝やかせている「今この時」の時間であり、自己を成長させ、未来を拓く大きな力となるというお話です。

3年生の皆さんは、高校生活も残り少なくなってきました。勉学や生徒会行事、部活動等、これまでいろいろな学びや体験をしてきたはずです。また、就職試験も間近、センター試験、二次試験という、3年間の学びが試される試練が控えています。残りの学校生活を、自分が試され緊張する場面でこそ未来を拓く力を冷静に発揮するために、「豊かな人間力」と「確かな学力」を身に付ける時間にして欲しいと思います。

もちろん、1、2年生にも同じことが言えます。失敗や負けを過剰に恐れることなく、未来への糧にする「やわらかさと強さ」を大切にしたいです。チャレンジする「主体性」、自分で自己を律する「自主自律」、そして勉学や部活動で発揮する「探究力」、「行動力」を養うことが、高校生活を充実させ、皆さんの未来につながる力になると思います。先生方は、そんな本高生を応援し続けます。

来年の3月1日、3年生の一人ひとりが第一志望を達成し、かつ人間的にも大きく成長し、ここ本荘高校の学び舎を巣立っていくことを期待しています。

昨日の全校応援で考えたこと、それを今日の式辞といたします。